

第7回 市民と議会のつどい（総務常任委員会の部）

会議録

日時 令和4年9月3日（土）午前10時開会

主催 宇治市議会

オンライン（ZOOM）開催

1. 開会

■服部 正 広報委員会委員長（以下「司会」）

おはようございます。

本日はお忙しい中、第7回市民と議会のつどいに御参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、宇治市議会で広報委員長を務めさせていただいております服部でございます。

まず初めに、今回の市民と議会のつどいに関して、準備運営を担っております広報委員会の私から簡単な説明を申し上げます。

市民と議会のつどいは平成30年に第6回を行って以降、コロナ禍で開催を見送ってきたという経緯がございました。しかし、これ以上市民の皆様の貴重な御意見を伺う機会を先送りにしてはならないと、コロナ禍でも確実にできる方法を議員全員で相談し模索をした中、今回、新しい形ではありますが、試行的にオンラインでの開催を実施することとなりました。

本日は、各常任委員会がテーマに関する関係団体や個人の皆様と意見交換をいたします。初めての試みでありますのでオンラインの参加者は人数を限らせていただきましたが、広く市民の皆様のお声をお聞きするという趣旨で、事前に今回のテーマに関しての意見募集を行いました。こちらの意見につきましては、後日ホームページなどで御紹介をしたいと思います。

また、本日はオンラインでの意見交換の模様を市民に御覧いただけるよう、パブリックビューイングの会場を御用意させていただいております。パブリックビューイングの会場におられる方は、オンラインの意見交換には参加していただけません。アンケート用紙を用意しておりますので、後ほどそちらに御意見、御感想などを御記載いただければありがたく思いますので、よろしく願いをいたします。

進行につきましては次第のほうを御参照いただきたいと思います。幾つか注意事項のお願いがございます。

1つ目は、市民参加者の発言のお時間をお一人4分程度とさせていただき、お時間が近づきましたら委員長よりお知らせいたしますので、よろしく願いをいたします。

2つ目には、Z o o mのお取扱いでございますが、発言される方以外はミュートにさせていただきまして、発言される方のみミュートを解除していただき、発言をしていただきたいと思います。また、画面には常にお顔が映るよう、ビデオのボタンをオンにさせていただくようお願いをいたします。委員長より指名された方以外の発言のときには挙手をしていただきたいと思います。その際には画面に見えるように、お顔の近くで挙手をしていただくようお願いをいたします。

本日は運営上、何かと不行き届きの点もあるかと思いますが、何とぞスムーズな進行に御協力いただきますようお願いを申し上げます。

また、記録のため、写真及びビデオ撮影を行いますので、御了承いただきますようお願いをいたします。

それでは、開会に当たり、宇治市議会議長の堀明人より御挨拶を申し上げます。よろしくお願ひします。

2. 議長挨拶

■堀 明人 議長

皆さん、おはようございます。ただいま御紹介をいただきました宇治市議会議長の堀でございます。

本日は、皆様には第7回市民と議会のつどいに御参加をいただき、誠にありがとうございます。開催に際しまして、議会を代表して一言御挨拶を申し上げたいと存じます。

皆様におかれましては、平素より宇治市議会の活動に格段の御高配、また御協力をいただいておりますこと、心より感謝を申し上げます。

さて、宇治市議会では、市民の御意向を的確に反映し、市民に開かれ信頼される宇治市議会を築くため、そして、市民福祉の向上及び市政の発展に貢献ができるよう、宇治市議会基本条例を制定いたしました。その条例の趣旨にのっとり、宇治市議会の活動を知っていただき、議員が市民の皆様と意見交換をさせていただく場として、この市民と議会のつどいを開催しているところでございます。

今回は、コロナ禍でも確実に開催ができるよう、オンラインでの開催といたしました。初めての試みでございますが、これまで以上に内容の濃い御意見をお伺いできるのではと期待をしているところでございます。

今回の事業において、いただきました市民の皆様の御意見を基に、今後も宇治市の明るい未来を築くべく議論を重ね、市民の皆さんに開かれ、そして信頼をしていただける宇治市議会を目指してまいりたいと考えております。

また、今回初めての手法となりますこのつどいの実施に当たりましては、服部広報委員長をはじめ広報委員会の委員の皆様、また、議会事務局の皆様の御尽力に心より感謝を申し上げます。

本日は、短い時間とはなりますが、実り多いつどいとなりますことを心より祈念いたしまして、開会の御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

■司会

議長、ありがとうございます。

それでは、意見交換を始めます前に、本日参加される皆様を御紹介したいと思います。

まず、市民参加の皆様から御紹介をさせていただきます。（紹介）

続きまして、私ども議会のほうの総務常任委員会のメンバーの方を御紹介させていただきます。

まず、総務常任委員長の池田様、そして、副委員長の金ヶ崎様、そして、委員の山崎様、そして、委員の西川様、同じく委員の稲吉様、そして、委員の佐々木様と私、服部正で進めさせていただきます。

それでは、早速意見交換を始めていただきたいと思いますので、ここからの進行は、総務常任委員会の池田委員長にお願いをしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

3. 意見交換

■進行 池田 輝彦 総務常任委員会委員長（以下「進行」）

皆様、おはようございます。総務常任委員長の池田でございます。

本日は皆さん、御参加大変ありがとうございます。どうぞよろしく願いをいたします。

本日は、総務常任委員会の市民と議会のつどいの御意見をお伺いするという事になっ

ておりまして、この総務委員会というのがどういったところを所管するかということなんですけれども、大変幅広い部署となっております、一つには危機管理室、それから市長公室、政策企画部、そして総務・市民協働部、会計室、消防本部、それから選挙管理委員会、そのほかにもございます。非常に幅広い部署を所管する委員会となっております。

本日は、この私どもの総務常任委員会のテーマとして3つ掲げさせていただきました。1つは「未来型公共施設 公共施設の今後のあり方」、2つ目が「防災に強いまちづくりについて」、3つ目が「人口減少対策 まちの魅力をアップするために」、この3つをテーマに皆さんから御意見をいただきたいと、このようにテーマを決めさせていただきました。

先ほども御挨拶からありましたように、スケジュールの都合から、皆さんの意見交換のお時間をお一人4分までとさせていただきます。大変限られた時間ではございますが、進行の都合もありますことから、御理解いただきたいと思います。

それでは、今回御参加いただいております市民の皆様から、このテーマについての御意見を早速お聞きしたいと思います。

まず最初に、発言者①様からどうぞよろしく願いいたします。

■発言者①（テーマ：未来型公共施設 公共施設の今後のあり方）

テーマとして「未来型公共施設 公共施設の今後のあり方」について、意見を述べさせていただきます。

公共施設が備えるべき要件として、まず第1に、利用者として常に新しい発見があり、生活を豊かにする体験ができるということ、それから2つ目に、地球温暖化、持続性社会、循環型社会というものを前提として、自然と共存した運営をしていく、3つ目に、やっぱり行政、事業者、市民一体となって運営していく、この3つが大切じゃないかというふうに考えております。

具体的な公共施設の例として、昨年8月にスタートしたお茶と宇治のまち歴史公園を考えてみたいと思います。

そのうちのひとつで、まず、展示についてなんですけども、見せる展示というよりも見たい展示というものを中心にする。

2つ目は、先ほども申し上げましたように、展示は「お茶」というテーマ1点に絞って、お茶の全てがこの展示施設、公園に来ると、見る、聞く、味わう、全てを体験することが

できるという形にする。

3つ目は、茶畑、太閤堤、それからこの展示施設、それだけじゃなくて、さらに宇治川と菟道稚郎子の史跡がありますけども、こういうものを総合的に見ていただくという捉まえ方、展示の仕方をするということを申し上げたいと思います。

次に、自然との共存ということですけども、公園の施設、運用から鉛筆の一本に至るまで、極端なことを言えばです、温暖化防止というものを考えた上でこれを実践しているということを見ていただく施設にすると。

2つ目は、駐車場はもう障害者だけのものにして廃止をして、公共施設を利用した見学をしていただく。

それから3つ目は、やっぱり公園全体が四季折々楽しめるような雰囲気にして、例えば里山のような雰囲気をつくるというのが好ましいのではないかというふうに思います。

次に、施設の運営についてなんですけども、施設管理者に、先ほども申し上げましたけども、行政、それから事業者、市民一体に参加して運用していくという形を取ると。

もう一つは、市民が参加した友の会とか、あるいはクラブだとか、あるいはガイドについても市民のボランティアが参加して、協力して実施してもらう。常に参加した市民から、SNSなんかを使って国内あるいは世界に「茶づな」のいいところを発信、拡散していただくということをやればいいんじゃないかというふうに思います。

最後にまとめとして、「茶づな」というのは非常に恵まれた広い敷地の中に展示施設があって、工夫をすれば非常に個性的で魅力のある公園にすることができるんじゃないかというふうに思います。これからますますそういう意味で、行政、市民、事業者の総意を全部取り入れてすばらしいものになることを期待しております。以上です。

■進行

ありがとうございました。発言者①様、大変貴重な御意見、ありがとうございます。
それでは、続きまして発言者②様、よろしく願いいたします。

■発言者②（テーマ：防災に強いまちづくりについて）

どうも、失礼いたします。

本日は、「防災に強いまちづくり」について御意見を申し上げたいと思います。

皆様方には、2012年8月14日の京都府南部豪雨災害におきまして、多大な御支援

と御援助いただきましたことを、この場をお借りいたしまして、改めてお礼を申し上げたいというふうに思います。

早いもので、あっという間の10年でした。この10年間を見ましても、同じような災害が全国で多発しております。多くの災害を見ましても、想定外ということで片づけられているように思い、心を痛めている状況でもございます。

2015年の9月に発生いたしました鬼怒川の堤防決壊事故を見ましても、過去にも多数の水害被害が発生している中で、その対策として、ダム3兄弟が洪水対策に大活躍などと一番大事な堤防強化の対策が後回しになっていたことなどを知り、誠に残念な思いもしているところでございます。

このような現状を見る中で、本日の貴重な場を与えていただきましたことに感謝し、その後、取り組んでまいりました命を守るための防災活動について、私の私見を報告させていただきたいと思っております。

防災活動で大切なこと、1つは予防対策だと考えています。災害は忘れずに必ずやってくると言われております。自分たちの住んでいる地域の過去の災害を熟知し、それを想定した対策を実行することであると思っております。

私たちの地域でも「28災の教訓」というふうに言われてきました。しかし、28災は、8月の寒冷前線通過と9月の台風による被害と2つあったことです。私自身も、宇治市は9月の台風による被害が甚大であったことから、寒冷前線の通過による災害を軽視していたことを悔やんでおります。

2つは、自然災害は止めることができないが、被害は対策によって最小限度に食い止めることができるということでございます。

3つは、被害には拡大要因があるということです。実際に2012年の災害では、大量の流木が被害を増大させました。その点で、全ての局面で「隠さない」「ごまかさない」「逃げない」「うそをつかない」という宮本博司さんの教えを守り、実践することが大事だと私は痛感しております。

最後になりますけれども、議会や行政の皆様におかれましては、2012年災害の復旧対策では、前川橋の新設に当たり、過去の災害の教訓を受けて2メートルかさ上げしていただくなどの地元の要望を取り入れた改修もしていただき、感謝しているところでございます。

本日、御報告、お願いさせていただきます1つは、居住地の上流域での治水対策です。

特に志津川支川の逃谷における治水対策について危惧いたしております。

2つは、天ヶ瀬ダム再開発事業がこのほど完了いたしました。計画されている宇治川1,500トン放流計画など、宇治地域の治水対策の安全度がどれだけ前進したのかなどの検証をお願いしたいと考えております。それは、天ヶ瀬ダム再開発事業は、流域に1時間82ミリで計画されております。2012年の南部豪雨災害におきましては、これに近い雨量があったということでもあります。私もこの点では抜かっていたと、今、反省しているところでございます。

以上、私の私見を申し上げまして、防災に強いまちづくりの一助になればというふうに考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。以上です。

■進行

発言者②様、ありがとうございました。

それでは、続きまして発言者③様、よろしく願いいたします。

■発言者③（テーマ：未来型公共施設 公共施設の今後のあり方）

おはようございます。

特に私のほうからは、未来型の公共施設、宇治市では総合計画等でいろんな計画を立てられて、その中の一つとして未来型の公共施設はどうあるべきかというのはいろんな面で述べられております。教育的な施設も含めて話題になっているところでありますが、その一つとして、今日は特に声を大きくして皆様方に訴えたいのは、宇治公民館が平成3年の終わりに廃止をされまして、現在、菟道のふれあいセンターでそういう活動が引き継がれておりますが、この貴重な施設、宇治公民館がなくなった跡地に、宇治公民館に類するような活動の場をぜひ検討していただきたいなというふうに思っております。

現在、公民館、いろいろ各地で活動されておりますが、非常に多くの団体、多くの市民の方が利用を望んでおられます。抽せん等で非常に厳しい状況で、なかなか自分たちの活動の場が手に入らないということで、宇治公民館の跡地利用と、それから今、その代わりとして行っておられます菟道ふれあいセンター、この活用をもう少し広げて、跡地も整備して、もう少し活用が有効にできるような方法を考えていただきたいなというふうに思っております。

これは当面の問題ですけれども、この会議のプレゼンテーションは、主に未来型と大きな

タイトルになってるんですけども、未来というとどれぐらいまで求めるかというのもありますけども、少なくとも私の意見の中にある答えは、大体50年をスパンとして考えていかれるべき、いってもらえるべきではないかというふうに考えております。

その中で将来的に施設が造られていくと思うんですけども、宇治市の総合計画の中でも生涯学習として定義されておりますけれども、私たち市民として願っておりますのは、中宇治、いわゆる旧宇治の中心地辺りにそうした施設を、いろんな活動の場の施設を検討してほしいなというふうに、長い目で見て考えてほしいなというふうに思っております。

その折に一つ提案をいたしますけれども、これからも議会関係等でもいろいろ検討されていくと思うんですけども、どういう施設がどういう方法で、いつ頃に必要になるか。どの層の市民の方がそういうことを望んでおられるのかという市民のニーズの、やっぱり十分な調査をしてほしいなというふうに考えております。

中宇治と通称私たちは呼んでますけれども、中宇治の人たちはあの施設をこよなく愛しておられます。あの施設というのはふれあいセンターです。今のふれあいセンターは物すごく利便性があって、非常にあの地域での活動をするのを望んでおられます。

したがって、未来型公共施設の中でも非常に近い未来においては、ふれあいセンター、宇治市公民館の跡地をどのように活用するかということをいろいろ検討していただきたい。

具体的には、やはり市民の声を聞いて具現化されると思うんですけども、我々としては切にあの施設が有効に活用できるように、どういう方法をされるのかという、非常に関心を持っております。それが一つです。

もう一つは未来型という、未来ですから、先ほど言いましたように、やっぱり長い年月のスパンの中で、例えば外国の例でよく言われますけれども、最近はちょっと下火になったんですけども、リカレント教育ということで、いわゆるリカレントの「リ」は「再」、「再び」ですから、「もう一度」とかそういう意味だというふうに思うんですけども、もう一度教育ができるように、長いスパンでもって考えていってほしいなというふうに思っております。以上です。

■進行

貴重な意見、ありがとうございました。

それでは、続きまして発言者④様、どうぞよろしく願いいたします。

■発言者④（テーマ：防災に強いまちづくりについて）

おはようございます。

私は、「防災に強いまちづくり」に関する御意見というか、体験談のお話をさせていただきます。

地元蓮池の話なんですけど、数年前の台風で大雨が降り、近辺の道路が冠水して床下浸水の被害に遭いました。もともと巨椋池干拓地であり、低い土地であることは理解していましたが、まさかという思いでした。

当時の早朝4時頃だったかと思いますが、電話が鳴り響き、何かと思い電話に出ると、隣の方でした。「とにかく玄関のドアを開けてください」と言われ、開けるとすぐそこまで水が来ており、もうすぐ玄関に届く勢いでした。横を見ると、お隣さんが車を移動されているところでした。すぐにお礼を申し上げ、私も高台に車を移動して難を逃れました。

その後、私は店が気になり、あふれる道路を歩き、店に歩いていきました。そこで数名の方が出ておられ、手分けをして市役所や消防に電話をしましたが、つながりませんでした。消防につながったときには被害状況を説明しても、もっとひどいところがあるのでこちらには来れないとのことでした。

たまたまお隣の方が私の電話番号を知っていたから助かったのですが、昨今は御近所づき合いも少なく、高齢化で町内会を抜ける方も多く、いざというときの連絡手段が分かりません。そういった不安をどうすればよいのか。ハザードマップはあるけれど、実際に何かあったとき、どういう対応をすればよいのか分からないと思います。連絡ツール、または何かそういう手段があるのかというのを思いながら今日は参加させていただきました。

ちょっと短いですが、私の御意見とさせていただきます。

■進行

ありがとうございました。

それでは、続きまして発言者⑤様、よろしく願いいたします。

■発言者⑤（テーマ：未来型公共施設 公共施設の今後のあり方等）

よろしくお願ひします。

まずちょっと、つどいのこの青いパンフレットを見せていただいたんですけど、このテーマ設定についてなんですけれども、総務委員会のテーマ、非常にいいと思います。

3つ挙げていただいて、全部、ちょっといろいろこれについて考えてみたら非常にいいかなと思うんですけど、ほかの委員会、全部コロナ、コロナで、ウィズコロナ、ポストコロナ、コロナ禍の交通機関ということで、何か意見がちょっと範囲を狭くしてしまっている印象があります。すみません、要らんことですけど。

未来型公共施設、これは公共施設というのは何を指しておられるか分からないんですけども、やっぱり時代に合ったものになってほしいなと思います。例えば道路という公共施設ということであれば、やっぱり道幅というのは時代によって違う。昔はリヤカー一つ通ったらよかったんでしょうけど、今は3ナンバーの車がすれ違えないといけないとか、時代、時代によっていろいろあろうと思うんです。

建物にしても、やはり昨今、こうやってリモートですとか、いろいろある。我々の仕事の場でも、リモートでほとんど全てのことができてしまうというようなこともあるので、それを大きく反映させたようなことが未来型と言えるのではないかと思うわけです。

やっぱり一部の層とか既得権益のように使う、一部の層が使うというよりもやっぱりもっと開かれた公共機関、公共施設というふうになってほしいなと思います。

防災なんですけど、防災に強いまちづくりをしようと思えば要塞のようになってしまうんですけど、こうなるともうちょっと非現実的なんだろうけれども、仕組みづくりをもっとできればいいなと思います。

例えば縦割り行政とかで、管轄外だから行けないとか、施設がうちの町にはないからとかというのはなかなか悲しいわけで、何かがあったときには総動員してでも命を助けるという仕組みがつくれればいいかなとも思います。インフラ整備ということになるのかもしれないんですけど。

あと人口流出ということで考えますと、働く人はどこでも働きますし、しかも、さっきも言いましたように、いろんなこういうリモートでも何でもできるわけなんですけれど、残って子育てをする方々、最近これ、奥さんとか御主人とか言ってはいけないんでしょうけど、残ってる方々がいかに住みやすいかというところが肝ではないかと思います。なので、やっぱり防災に強くて、公共施設も使いやすく、衛生的で住みやすいというまちになっていければいいかなと思います。

何か漠然としたことばかりですすみません。そのように思う次第でございます。

すみません、以上です。

■進行

ありがとうございました。

それでは、続きまして発言者⑥様、どうぞよろしくお願いいたします。

■発言者⑥（テーマ：防災に強いまちづくりについて）

委員会の皆様、参加の皆様、おはようございます。招待いただきありがとうございます。

それでは、画面の共有をさせていただきます。

私のほうは、「防災に強いまちづくり」ということでお話のほうをさせていただきたいと思います。

一応自分はワークショップの代表をしてるんですけども、防災士として、地域をはじめ日本の全国から依頼を受ければ防災の指導とか、また、被災地のほうに行って、災害のほうを中心にさせていただいております。

実を言うと、9月1日防災の日から始まって、ずっと連日、防災の関係であちこち飛び回ってまして、残念ながら今も車の中から、安全な駐車場に車を止めて、今、接続させて、ちょっとすみません、すごく申し訳ないなと思っております。

ちょっと飛ばします、時間がないので。

簡単に、具体的には防災ツール、防災ということで、河川の内水氾濫とか、宇治市の場合は。あと家屋、地震なんかにおける耐震なんか、ハード面はお金さえあれば幾らでも強いまちづくりは可能です。しかし、予算は限りがあるので、宇治市の市民約18万人を災害から守るといのは本当に限界があると考えられますので、どうしてもそこはできない。ならば、18万人いてるソフト面、マンパワーを強化することが何よりも強いまちづくり、防災に強いまちづくりになるのではないかなと、5つの提案をさせていただきたいと思います。

27年前の阪神・淡路大震災では、全国から多くのマンパワー、ボランティア元年とも言われました。たくさんの方が集まったんですけども、よいも悪いも、スキルもばらばらで、それだけトラブルもたくさん抱えてたのも事実です。だからこそ自分たちのまちは自分たちで守る、被災者から支援者に自分で回ること、自ら進んで支援復興・復旧に、人材育成として上げられた、今、防災リーダーさんなんかはリーダー育成として研修があるんですけども、やっぱり市民全体にある、一人一人の参加ができるプログラムというのが必要と考えています。

最初、1つ、危機管理室さんの出前講座というのが昨年18回、自治会の依頼で受けられています。ただ依頼だけでなく、自治会の催事なんかにも、10分でも20分でも、何か防災に関わることをお話ししに行くだけでも違うのではないかなと思います。

2つ目は、子供さんです。中学生、高校生なんてすごい力なんです。だから、子供会やスポーツ少年団なんかにゲーム方式なんかで知恵と行動を学んでもらうような何かを、学校の防災にはない一面も教育として入っていただければなと考えてます。

あとは、今言われているインクルーシブ防災です。これは個別避難計画だとか避難行動要支援者のことについてなんですけども、東日本大震災や熊本なんかで、近所の方が助け合っただけの避難行動が着目されてますので。ただ、これにはちょっとリスクがあります。歩行困難な方や車椅子の利用者なんかは介護方法が不慣れやと二次被害も生まれますので、市と締結してる福祉避難所の介護福祉士さんなんかから指導を受けて、平時からも福祉協力をお願いしてもらおう。市民の災害スキルアップを目指して、年に1度の防災訓練でも、介助が必要な市民に参加してもらおうということ、その意見を反映した気づきが必要と考えてます。

これも別の地域、私が指導しているところなんですけども、福祉避難所と書いてますけど、実際は普通の体育館の避難所になります。小学校の避難所です。福祉避難所が開設されてなくても、必要な方は別のフロアに行ってもらって、写真で階段で実際運んでもらうということも市民の方でやって、安全を確認してもらいながら運営をしてもらうということも指導させてもらいました。

4つ、これは今現在よく言われてます車両避難者とペット同行避難者の啓発です。これは総合防災訓練、次回10月にやるんですけども、記載がありませんでした。どうしてもルールがやっぱり曖昧になってくるので、それぞれの地域で話し合う機会というのを設ける必要は出てくるかなと思います。

あと5つ目は、今も実際、こうしてZoomで開催してますので、決して新型コロナウイルスが収束したわけではありませんので、避難所におけるゾーニングについても、もともとから、開設する前から分けをする必要があると思います。避難されても集団感染、インフルエンザなんかも過去の被災地の避難所でももう既にありますので、これもコロナウイルスに関することは総合防災訓練にも記載がありませんでしたので、この時期だからこそ必要かなと思います。まだまだ、薬もできてませんし、いざ、検査キットも今も問題がありますし、実際感染者が1人やったら全然、隔離すればいい話ですけど、これが20万人

になればもう災害です。

だから一人一人の考えを、意識を考えることでたくさん気づくところがあると思いますので、ふだんから活躍できる市民による応急手当てや要支援者——スペシャルニーズと言われるんですけども——の観察、災害関連死についても取り組むことが必要かなと思っております。大きな大震災なんかは特に必要になってきます。

以上5点、マンパワーの育成ということで、強いまちづくりのほうを目指しました。ただ一気にすることは当然無理なので、できることから、初めの一步として取り組んでいただけますよう、御提案としてお願いいたします。

ちょっと早口で申し訳ありません。以上です。

■進行

ありがとうございました。

それでは、最後に発言者⑦様、よろしくをお願いいたします。

■発言者⑦（テーマ：人口減少対策 まちの魅力をアップするために）

お疲れさまです。今日はよろしくをお願いいたします。

私のほうから、特に「人口減少対策 まちの魅力をアップするために」というテーマにつきまして質問させていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

私なりにちょっと統計資料を見てみたんですけども、宇治市の統計資料、ネットに上がってる分だけですけども見てみましたけれども、宇治市というのはこの直近10年でも1万人以上人口が減っているということでございます。私が2014年から宇治に住んでるんですけども、体感的には人が減ってるということは全く分からないんですけども、統計資料上、やはり減ってるというところは、まちの魅力という点で減っていったんじゃないかなというふうに思っております。

私なりにその理由というのを幾つか思い描いてみたんですけども、宇治市はやはり大都市のように企業の勤務地として人が集中するということはまずないということが1点目です。

また、2点目は、最近ではやっぱり人の流れ、人流が結構地方に回帰していった。今まではずっと都市圏、関東圏ですとか大阪ですとか、そちらのほうに日本の人口というのは集中していったかと思うんですけども、直近10年とかというスパンで見たときに、

やっぱり人流というのは地方に回帰していったと。

また、このコロナ禍の中でリモートワークですとか、そういうITがどんどん普及していく中で、もうどこで働いてもいいよという会社も増えてきてて、都市にとどまってる必要がないから自然に近いところに行こうという層も増えてきてると。

そういう中で見たときに、宇治市というのがIターンの候補地としての魅力もなかなか打ち出せてないというか、その点についても弱いんじゃないかなというふうに思ってます。

よく言えば、適度に都会で適度に田舎があるというのが宇治市の魅力なんですけれども、一方で見方を変えれば、とがった魅力に欠けるといふところがあるんじゃないかなと。都会が好きな人にとっては中途半端に住みにくくて、逆に自然の中で暮らしたいなという層にとっては都会過ぎると。このままでは宇治市が居住地として選択される可能性というのはやはり徐々に低下し続けるんじゃないかなというところを懸念しています。

その中でどうやってまちの魅力をアップしようかというところでもありますけれども、私の意見としては、もう少しIT技術ですとか自動化技術、あるいはロボティクスという部分の活用を図って、高齢者にとっても若者世代にとっても暮らしやすい魅力的なまちづくりができないかというところを感じています。

最近では大手企業あるいは特にベンチャー企業、いわゆるスタートアップの企業とかと協力して、いろいろな実証実験というのをまちの中で実施している市町村というのが多く出てきております。その中で企業とのタイアップ企画がどういふところがあるのかなというのをネットとかで検索しても、あんまり宇治市がそういうイベントごとですとか実験の会場として選ばれてるといふのが、ネットの中でヒットするといふのは極めて少ないかなというふうに思ってます。あまりその点に関して積極的な取組ができていない印象が私の中ではあります。もしやっていたとしたらちょっと申し訳ないんですけども、私が探した限りではなかなかなかったかなというふうに思ってます。

そういった中で、特に提案としては、若者世代とかあるいは子育て世代にとっては、やっぱりもう少しITの活用をして住みやすいまちづくりをしたいと。特に私、去年、自治会活動に従事してたんですけども、市町村から様々な連絡をいただくんですけども、やっぱり全て紙なんです。それをこちらのほうで全世帯に配布するというような運用をしてたんですが、特にIT機器になれ親しんでる世代にとってはそれはすごいおっくうで、非常にそれがまちの魅力を欠いてる一つの要因にもなってるかなと。

ただ紙を、じゃ、なくしたらいいのかといったらそういうわけでは全くないんですけど

ども、従来の紙の運用を継続しながらもIT化をする必要があるんじゃないかというところ、あと情報発信だけをIT化するというのではなくて、市民同士の交流を活発化させる、市民同士をつなげるツールというのを開発していただけたらなというふうに思っております。

また、高齢者世代にとっては、まち全体で高齢者に優しい取組というのを、トライアルでいいのでしていただきたいなというふうに思ってます。例えば私の住んでる地域も坂道が非常に多くて、高齢者の方にとっては非常に住みづらいまちになってるかというふうに思うんですけども、そういうところで低速で動く無人巡回バスというようなものやってみるですとか、あるいは電信柱に電子掲示板という形でいろんな情報を載せると。例えばそれって防災、天変地異みたいな地震とか火災とか、そういうのが起こったときに、避難所はこちらですとか、どこどこで物資を配給してますとか、そういう情報も載せることができますし、誰にとっても住みやすいまちというのができるのかなというふうに思っております。私からは以上です。ありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。

これで御参加いただいた方、全ての方の御意見をいただくことができました。大変短い時間で、少し大変御迷惑をおかけしましたが、どうか御了承いただきたいと思っております。貴重な御意見、大変幅広い御意見いただきました。ありがとうございました。

ここで、事前にいただいている、市民の皆様からも御意見募集をさせていただきまして、この総務常任委員会には2通の御意見をいただきましたので、御紹介をさせていただきたいと思っております。

1つ目は、「人口減少対策 まちの魅力をアップするために」ということに関しての御意見でございますけれども、宇治を音楽のあふれるまちにということで、コロナ禍で人と人との交流が減ってきた中、コンサートなど文化に直接触れる機会が減ってきてるのではないかと。ユーチューブとかを見ますと、ストリートピアノを弾いて盛り上げてくれる方もいらっしゃいます。その設置場所とかを調べてみますと、全国様々な場所で多くの方がストリートピアノを楽しんでおられまして、神戸市などは1駅ごとにピアノが設置されて自由に演奏ができる。滋賀県はグランドピアノを3台設置されているというところもございます。宇治市にも駅の構内や、また人が集まれる場所に、自由に弾けるピアノを設置し

て、「音楽のあふれる魅力あるまちに」をキーワードにしてみませんかという御意見が1通でございました。

そしてもう一通は、「未来型公共施設 公共施設の今後のあり方」について、これについての御意見でございます。

図書館を核とした中宇治地域への公共施設の集約、統合をという御提案でございました。宇治市の課題は、気軽に立ち寄れるスポットが少ないのではないかと、また、図書館など公共施設がばらばらでアクセスにも課題があるし充実していない、このような御意見でございます。これらを集約しまして、地域の特産品のアンテナショップ等も併設されてはどうか。宇治市の文化センター、産業会館も非常に年数がたっております。図書館も少し立地条件に課題がございますし、宇治市にしては規模も少ないのではないかと、立ち寄りにくいのではないかと。これらを統合すると、維持費の低減、新たなイベントの創出、市民活動スペース、交流の場をつくる等、様々に利点があるのではないかとということでございます。

最後に御意見として、先ほども出ましたけども、「茶づな」です。「茶づな」を利用して、少し建て増しをして図書館を併設すれば、先ほどの御意見を合わせたものを「茶づな」のところに造れば、自然に人の流れもできるんじゃないかと、このような御意見を2ついただきましたので御紹介をさせていただきました。

本日は大変活発な意見をいただき、私どもといたしまして、大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。今後も総務委員会として皆様の御意見を取り入れて、しっかりと市政運営に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

お時間がまだ少しございますので、委員の皆様にも少し発言がございますようですので、発言していただきたいと思っております。

それでは、山崎委員、どうぞ御発言してください。

■山崎 恭一 総務常任委員会委員

ありがとうございます。

それぞれの皆さん方の御意見を聞かせていただいて、大変参考になる。特に私自身も防災の問題については大きな関心を持っています。宇治には宇治川という大きな川があり、川の両側に住んでおられる方は、多分宇治川の底よりも低いところというのが多いと思うんです。万が一の結果になったら大変なことになります。急斜面も東宇治から山間部にか

けてたくさんあります。黄檗断層とか花折断層という巨大な地震のもとになりそうな断層も宇治市内にありますので、そういう点では、災害というのは想定をするとかなり大規模なことが必要だなと思っています。

一つは、何人かの方もおっしゃいましたように、マンパワー、住民同士の助け合いをどういうふうに効果的につくっていくかというのが、命を救うという点では一番効果があるというふうに思っています。

もう一つは、宇治はいろんな災害、津波以外の大抵の災害はあり得るわけですが、その想定をした日本でトップレベルの研究機関の京大の防災研が宇治市にあります。もう少し防災研と提携をして、あんまり、どこにでもある程度の防災計画ではなくて、全国の見本になるような先進的な防災計画を思い切っつくってみたいらどうかと。いつも何か起こると書き足したり修正されていくんですけども、後追い後追いの防災計画になってしまってると思うんです。せつかく研究機関があるわけですから、すぐに実施できないことも含めて、あるべき防災の在り方を、先進的なものをつくって宇治市の宝として持ち、その実現にみんなで頑張るといようなこととしてはどうかと、皆さん方のお話を聞いてて強く思ったところがございます。

以上です。

■進行

ありがとうございました。ほかに。佐々木委員、どうぞ。

■佐々木 真由美 総務常任委員会委員

皆さん、ありがとうございました。

何か市民の方から直接お話を聞くこういう機会にこのつどいになって、非常にうれしく思っています。

先ほどテーマについて総務は3つあって、これ、大丈夫かな、ばらけへんかなと思ってましたけど、何かどなたの意見をお聞きしても、そこが全部つながって初めて防災にも強いし、安心して住めるし、魅力的なまちになるんだなというのがよく分かりました。

先ほど山崎議員からもマンパワーについてありましたけれども、やっぱり非常に人はつながってるよ、安心して暮らせるよというのが何よりまちの一番の魅力にもなっていくと思いますので、そこをどんなふうにしていくかというのも、議会でもしっかりと話し合っ

ていただきたいと思いますので、またぜひ御意見を届けてください。ありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。それでは、稲吉議員、どうぞ。

■稲吉 道夫 総務常任委員会委員

本日は大変、本当にお忙しい中、ありがとうございました。

このオンラインによる市民と議会のつどいということで、初めての日でもあります。私、本当に緊張感を持って皆様の御意見を伺わせていただきました。本当にお一人一人の御意見をお聞きする中で、大変にこのふるさと宇治に対しまして熱意の籠もった、そしてまた建設的な御意見を賜りました。

その中でも防災の命を守る観点から、私も防災士、宇治市防災リーダーをさせていただいております。過去の災害を忘れないことを心がけること、これを大事にすることだということもありますし、まちの魅力アップについては本当に住民の熱意と行動でまちの変革に挑んでいるとのお話もありました。そういった方々にこの宇治市というのは支えられているんだなということを改めて感じさせていただきました。

今回の皆様の御意見を参考にさせていただきまして、今後の議会での議論に役立ててまいります。何とぞ今後も貴重な御意見を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

■進行

ありがとうございました。服部委員、お願いいたします。

■服部 正 総務常任委員会委員

失礼いたします。服部正でございます。

大変いろいろ貴重な御意見を市民の方からいただきまして、防災や公共施設、そして公共機関のこと、大変勉強させていただくことができました。

中宇治で公共施設をとというようなことがありましたが、私も先日の総務常任委員会での行革の報告では、未来型の公共施設の件はどうなってますかと市のほうに問いをさせてい

ただいたところでございますが、準備のほうを着々と進めてるということで期待をしております。

また、皆様方の様々な防災や公共施設、公共機関の交通など、様々な御意見、またこれを参考にして、私も委員会の中で、また議会の中で取り組んでいきたいと思っておりますので、また今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

■進行

では、西川委員、お願いいたします。

■西川 康史 総務常任委員会委員

貴重な御意見、ありがとうございました。

幅広い地域よりお越しいただき、そして、お住まいの地域の問題点などをお聞かせいただきました。ありがとうございます。今後の市政にしっかりと反映させていただきたいというふうに思っております。今後とも御指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。以上です。

■進行

ありがとうございます。では、金ヶ崎委員、お願いいたします。

■金ヶ崎 秀明 総務常任委員会副委員長

多数の御意見、ありがとうございました。

これから未来の公共施設については、もう総務常任委員会でも多機能型、子育てできたり教育、そして児童館があったり、そして調理室があつて、市内のお店がそこでいろんなものを物販できたりカルチャースクールができたりという、耐震化を図れない施設については、これからそういう多機能型の未来型施設にしてこうという審議が今、されております。

それと災害については、この間、総務常任委員会でも視察に行ったんですけども、やはり人が入れない、厳しい難しい場所にはドローンをもっともっと活用して、早期発見、未然防止につなげていこうということになってます。

それとDX化については、今年の予算で民間のデジタルプロデューサーという方が庁内

に入ってください、市の職員の皆さんといろいろ議論をしながらデジタル化の推進をスピードアップしていこうということになってますので、これから常任委員会も市民の皆さんと共に、この宇治市がどんどんと成長していけるように頑張っていきますので、今後とも御指導よろしくお願いいたします。

■ 進行

委員の皆さんも御発言、ありがとうございました。

それでは、最後に広報委員会副委員長の西川副委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 閉会挨拶

■ 西川 康史 広報委員会副委員長

広報委員会の副委員長の西川康史でございます。

本日は御参加いただきました市民の皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。

本日の内容は、後日ホームページなどで御報告させていただきます。

また、パブリックビューイングで御参加いただきました皆様、どうもお疲れさまでございました。ありがとうございます。よろしければアンケートへの御協力をお願いいたします。お帰りの際は、お気をつけてお帰りください。

以上をもちまして、第7回市民と議会のつどい、総務常任委員会の部を終了いたします。

Z o o m参加者の皆様、どうぞ御退室ください。ありがとうございました。